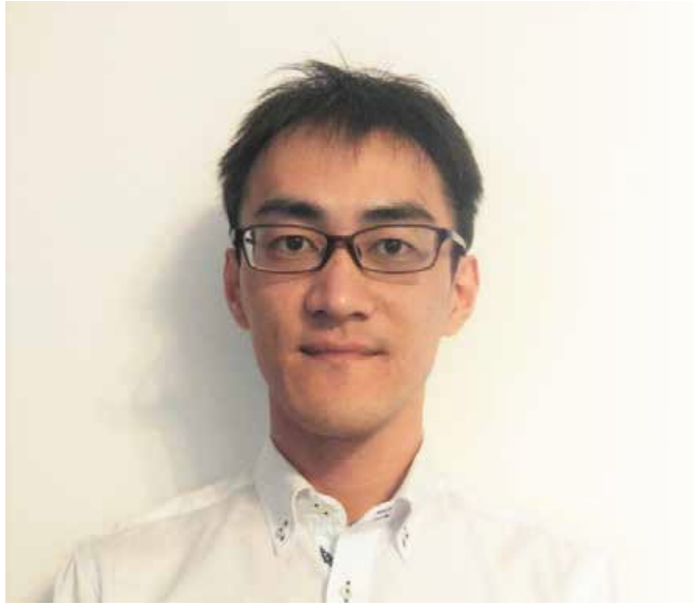
— vol.11 —
2020年6月10日発行



さざなみシニアサポート

大上 浩史（おおうえ ひろし）

さざなみ

「入居者様、相談者様のお手伝いは『してあげる』のではなく、『させていただく』と思うように しています」。

仕事をする上でのポリシーをこう語る大上浩史は、２０１８年11月に入社した。入居を希望する方に合った高齢者施設を探すための手伝いや、入居に必要な手続きの手助けなどを、地域のケアマネージャーや病院に勤務する相談員、地域連携室担当者と協力して行うことが、シニアサポートを務める大上の仕事だ。

――貫きたい思いを抱えて、転職へ

前職では大規模な医療法人に所属し、最初は地域連携の渉外担当者として主に高齢の患者様を病院に迎え入れる為の連携支援を行う業務を担っていた。日々やりがいを感じていたが、辞令を受け、人間ドックを担当する部門へ異動となる。

ここでは企業や団体に所属する人たちへ向けて、健康維持を手助けするための仕事を行った。以前のように不自由を感じている人たちを手助けするものではない。戸惑いを感じたが、まずは1年以上頑張って成果を出すことを目標にし、何か得るものがあれば続けようと決意をして仕事に励んでいた。

しかし、心の中では以前の仕事への熱い想いがくすぶり続けていたことも確かだ。

「業績をあげても虚無感が残り、満足することはできませんでした」。

大上にとって強いやりがいを感じて行える業務は、やはり高齢者や障害を持った方のサポートをすることだった。異動前の仕事の方が性に合っているという感覚や、当時の充実していた気持ちも大切にしたい。こう考えがまとまった時、以前から誘いの声をかけてくれていた、さざなみの職員のことを思い出した。面接では「利益だけを追うのではなく、できうる限り地域の方々に満足してもらえる仕事をしたい」と自身の思いを伝えると、役員は快く受け入れてくれた。

「入社して約1年半が経ちました。思うように仕事をさせてもらい、やりがいのある毎日です。さまざまな方の架け橋になれるよう、業務に取り組んでいます」。

強い思いが叶えられる仕事を、ここでようやく掴むことができた。

――困っている方にこそ、熱意ある対応を

現在の業務にはマニュアルや決まった型はない。相談者様とそのご家族に合った最適な手助けを模索し、実行していく。金銭面で苦しい状況にある方をサポートする機会も多く、少しでも満足できる環境に身を置いてもらうためには、より密な関わりが求められる。

例えば生活保護や、引越しの費用に関する補助などを申請する際は、本人に代わって行政と交渉を重ねることも大上の役割だ。困っている点や、不足していることがないかと気にかければ、自然と面談の回数も多くなる。こうした手助けの末に入居へと行きついた時には、やりがいを感じるという。

「入居された施設で『大上さんに手伝ってもらって良かった』と言われると、もうちょっと頑張ろうと思えます」。

大上の妥協しない姿勢は、行政の担当者の心も動かす。サービスの対象や範囲について明確なボーダーラインを引き、よほどのことがない限り例外をつくることはしないのが行政だ。しかし足繁く通い、交渉を重ねると、「ここまでお任せします」とハードルを下げてくれることもある。自身の仕事に対する熱意が行政へと届き、自身に向けられる視線も変わってきた時の達成感は大きい。

――入居者様の満足のために

「医療・介護業界の渉外担当者は、自分の顔をつなぐことで仕事をしています。ですから全く違う場所に身を置いたら、また一から関係を築き上げないといけない。必要な資格などもなく、残るものがない職業なんです」。

担当する地域で人脈をつくるのは、地域の情報や行政の制度の細かな部分まで把握するためであり、時には話をスムーズに運ぶためでもある。入居者様やその家族と信頼関係を築いた上で、最適なサービスを提供できるよう奔走するのが大上が担うシニアサポートの役割だ。

入居者様、相談者様をいかに支えるかを第一に据えながら、介護スタッフへの研修やサポートのあり方を考えることも自身の課題だと感じている。まずは、検査データの見方など病院勤務で得た経験を伝えていくことを足がかりに、現場で活かせる知識を蓄え、仲間への手厚いサポートを実現させていきたい考えだ。

こうした飽くなき向上心を胸に、大上はこれからも成長を続けていくことだろう。

第18期の振り返り

令和2年6月1日を持って、有限会社さざなみの介護事業部は第19期をスタート致しました。
第18期は各事業所、満床に向けて取り組み、地域とのつながりなども意識した年になったかと思います。コロナウイルスの影響もありましたが、忙しい日々の中でも入居者の方の為に新しい取組みを職員の皆さんが考え、行動してくださっています。
今回は3事業所の管理者さんに第18期を振り返ってもらい、来期の目標も伺いました！

【質問事項】
❶第18期振り返って感想や印象に残っていることを教えてください
❷第19期の抱負や挑戦していきたいことは何ですか？
❸職員の皆様にメッセージをお願いします

ヘルパーステーションわおん

❶壱番館では、毎月入居者様にレクリエーションを提供させていただいております。この一年間を振り返り、一番心に残っているのはお正月です。一日の昼食は、入居者様と一緒におせちを食べます。三が日の間は、かるた・書初め・福笑い・書初めなど、お正月遊びを行い、職員も一緒にお正月を楽しませていただいております。この、壱番館のお正月がいつまでも続けていける様にと祈っております。

❷入居者様にとって事故の無い介護・居心地いい毎日・絵顔溢れるリビングを目指したいです。

❸常に、心に余裕を持ち、日々の何気ないお声掛けが出来るヘルパーになって欲しいです。

さざなみ城東

❶事業所の統一を図る年になりました。職員体制の立て直しと職員の意識の改革に取り組みました。定着率が悪く、模索・観察する日々が続きました。指導は依然と変わりがありませんが、個々に合わせた指導の言葉を選択してきました。自分たちで創り上げる施設の在り方を職員が考えるようになってきています。職員を職員が育てることの意味を理解してきています。素晴らしいことだと思っています。

❷今が正念場だと理解しています。新職員が現職員のレベルまでになれば社会・地域からの求められるグループホームになり得ると思っています。細かく言うときりがありませんが家族から推薦が受けられ、ご紹介で入居ができる施設を目指したいと思っています。（セラピードックが飼いたいです）

❸今、私もやっと前進できると思っています。苦しい時もよく耐え協力し合い「さざなみ城東」を育てていただきありがとうございます。やっと春が来るような気がします。やがて花が咲き、実をつけ、次の難関も乗り越えさらに成長してくれることを望んでいます。

グループホームさざなみ

❶最近は近隣の方の入居が増えてきています。この地に根付いてきたのでしょうか。現在はコロナの影響で面会はできませんが、ご家族やお友達が尋ねてこられることも多いです。印象に残っているのは、やはり先日1ヶ月あまりでご逝去をされたY様についてです。1ヶ月余りでご逝去されてしまいましたが、人生最後の一ヶ月をみんなから愛され旅立たれました。ご家族や居宅ケアマネージャーから、感謝のお言葉をいただける介護を職員みんなで実践できたことが特に印象に残っています。

❷これからも地域の方やGHの同業の方達ともお付き合いさせて頂き、より一層家庭的な雰囲気を大切にして、居心地の良い施設にしていきたいです。

❸職員の皆さんには、本当に感謝しています。自分たちにもいつか訪れる現実に、嫌な顔をせず笑顔で優しく・気持ちよく対応されているのに頭が下がります。どうか無理をせず、声を掛け合い・助け合って入居者様を暖かく見守ってあげてください。

次号も続きます！他の事業所も紹介しますのでお楽しみに！

イベント情報

今回も前号に引き続き、楽しかったイベントの様子を紹介します！

グループホームさざなみ 松屋町

松屋町のお正月は、調理さん手作りのおせちをいただきました。お雑煮のお餅も手作りで、安全に召し上がって頂ける工夫もたくさんされていました。もう来年のおせちが楽しみですね！

グループホームさざなみ 京都南

節分の日、職員手作りの恵方巻きをいただきました。大きく口を開けて丸かじりされる方も！その後は、赤鬼に扮した職員向かって豆まきをし、みんなで無病息災を願いました。

グループホームさざなみ 大池橋

外出自粛が続く近頃、少しでも楽しめることをと思い、職員でレクリエーションを企画しました。職員手作りのホットケーキが焼き上がるまで、脳トレや体操・カラオケなどで盛り上がりました。笑顔をたくさん見ることができ、企画した職員さんたちにも笑顔が広がっていきました。

グループホームさざなみ 鶴見

桜見物には心地の良い日でした。
入居者様をご案内するには今日しかないと思い、近くの堤防へ。見物の方もおられず、参加された方々は久しぶりの外気を吸われ、嬉しそうにされておりました。

おすすめの本紹介

お家で過ごす時間が増えている今、読書をしてみるのはいかがでしょうか？今回は3名の方にオススメ頂いた本を紹介します！

『黒い家』

著者：貴志 祐介　出版社：角川書店（1998/12/10）

推薦者：加納事業所 Uさん

おすすめポイント：
モダンホラーの代表格作家の作品です。あらすじを読むだけでも、背筋がゾクッとするお話。この夏挑戦してみてはいかがでしょうか？

『自分の名前に「ありがとう」を唱えると奇跡が起こる！』

著者：愛場 千晶
出版社：コスモ21（2015/07/23）

推薦者：松屋町事業所 末長さん

おすすめポイント：
心が楽になる魔法の言葉です。

『不抜（ぬかず）の剣』

著者：植松 三十里　出版社：エイチアンドアイ（2016/4/28）

推薦者：鶴見事業所 無記名さん

おすすめポイント：
幕末の剣客の生涯を描いた物語。国を思い、家族を思い、友を思う心情に胸が熱くなり、終盤でハンカチを出してしまいました。本当の強さとは何かを考えさせられます。